

MVSC 能登半島地震 被災地ヒアリング 報告

MVSC の幹事団体として、2024 年 3 月 5 日～7 日に輪島市と金沢市に行き、被災地支援をされている団体などのヒアリングを行った。目的は、能登半島地震被災地で支援活動をしている多様な主体から現地の状況をしっかり聴き、三重に暮らす私たちがすべきことを具体的にするためである。

【ヒアリング日程】

行程	3 月 5 日 (火)	17:30 津出発 22:30 金沢到着
	3 月 6 日 (水)	10:00 輪島市門前地区 RQ能登ベースキャンプ 能登保養 PROJECT 11:00 輪島市門前地区 もんぜん楓の家 11:20 輪島市門前支所 シャンティ国際ボランティア会 三重県観光部/徳島県危機管理部環境部 13:30 輪島市役所 ピースボート災害支援センター 輪島市役所市民生活部 15:00 JOCA・輪島カブーレ 15:45 輪島市社会福祉協議会 三重県社会福祉協議会 16:40 ウミュードウ (キャンナス)
	3 月 7 日 (木)	9:00 石川バリアフリーツアーセンター 10:45 石川県社会福祉協議会 にいがた災害ボランティアネットワーク 全国社会福祉協議会 13:30 石川県庁 女性活躍・県民協働課県民協働グループ 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 15:30 石川県民文化スポーツ部女性活躍県民協働課 石川県 NPO 活動支援センター 金沢エコライフくらぶ

【ヒアリングを終えて】

輪島市門前地区、輪島地区を訪れ、被災状況、被災支援の状況を目の当たりにした。

輪島でヒアリングに対応してくださった方、みなさんが「人手が足りない」と話された。

能登半島の地形から交通・移動が厳しいこと、都市部からの距離があること、過疎化と高齢化による人手不足が、より被災対応の困難さを増していることが言われている。

そのような状況から、輪島市、輪島市社会福祉協議会、現地入りをしている NPO、地元 NPO の情報共有や連携がいかに重要かを感じさせられた。

- ・地震が起きたらどうなるか。
- ・避難所が設置されたらどうなるか。どのように運営がされるのか。
- ・広域避難は必要か。どこに避難をするのか。
- ・在宅避難・車中泊をしている人はどれくらいいるのか。食事や体調はどうなのか。
- ・食事や炊き出しは十分に提供できているのか。

- ・高齢者や障害のある方、外国の人、子どもたち、女性、ペットを飼われている方など様々な状況にある人にどう対応できるのか。

想像し、声を聴き、判断、選択しなければいけないことが一気に多様に噴き出してくる。

そして、状況やフェーズが刻々と変化する。

- ・自宅に戻る（通う）人が増えると家屋の片付けが始まる。
- ・一緒に片付けや処理を行う人（ボランティア）が必要である。
- ・廃棄物の処理は誰がどのようにするのか。
- ・ボランティアの募集をどのように行うのか。
- ・応募のあったボランティアへの連絡・調整はどのようにするのか。
- ・ボランティアはどこにどのように派遣するのか。
- ・仮設住宅ができる。仮設に暮らす人々の生活環境はどのようなものか。仮設に移られた住民のケアを誰がするのか。
- ・生活を立て直すためには産業、生業が必要である。その支援をどうするのか。
- ・「コミュニティのつくりなおし」を被災された人々と、地元外の人や多様な主体がどのように行っていくのか。

2日間ヒアリングをただけで、ヒアリング内容から想像し、考えるべきことが湧いてきた。

石川県災害ボランティア本部、石川県社会福祉協議会（支援P会議）、石川県 NPO 活動支援センターや NPO にも伺った。

- ・県域ですべきことは何か。
- ・三重県に暮らす私たちに何ができるのか。

「人手がいる」「物資がある」「炊き出しが足りない」という現地の声を聴き、必要としていることに少しでも対応できるように何をすべきかを検討し、すすめたいと考えている。